

3年ぶりに対面での講演会です。

「技術士を知ろう！ in 北海道科学大学」

1. はじめに

「技術者のミライ研究委員会」(ミライ研)にて運営等を担当している「技術士を知ろう！」ですが、2022年度の活動第1弾は、2016年度から講演を行っている北海道科学大学(北科大)にて実施しました。今回も青年技術士交流委員会(青技交)の連携・協力を得て、実施しています。

今回、対面での講演を実施するにあたり、大学側とも相談し、マスク着用、アクリル板設置等の感染対策を取った上で“出前授業”を実施しました。

2. 実施概要

開催日時：2022.6.2(木) 13:00～14:30

講義内容：技術士について

技術士の仕事内容と役割(講演2編)

土木全般の仕事紹介

対象者：北海道科学大学都市環境学科 1年生
計36名

参加幹事：小澤、木本、千葉(記)(ミライ研3名)。
中出、森若(青技交2名)。

北科大での講演は、都市環境学科の細川先生・松田先生の力強いバックアップがあって、これまで実施できています。ご協力に感謝致します。

3. 技術士について

小澤代表より、技術士資格の説明として、技術士の役割、資格取得方法、持つことのメリット等を説明したほか、社会人になってから仕事をする上での資格取得の重要性等について説明を行いました。

最近プライベートが充実し過ぎているせいか、膨らみが増し、貫禄十分となった代表。学生達には、親しみやすいお父さんキャラなのかもしれません。



写真1 貫禄をつけ学生達との距離を縮める小澤代表

4. 技術士の仕事内容と役割

(1) 技術士の仕事(中出技術士)

具体的な仕事内容の紹介として、まずは(株)不動産テトラに勤務する中出技術士から、関わってきた仕事の紹介をしました。

軟弱地盤や地盤改良とはどのようなものかについて、イラストを交えた説明を行い、学生達もイメージが付きやすかったと思います。特に現在取り組んでいる“北海道ボールパーク”の事例紹介では、学生達も食い入るように話を聞いていました。

また、自身が考える技術士の役割とは、「調整役」と「ストッパー」であるという語りは、私達が聞いても、なかなか奥が深い話でした。



写真2 緊張気味の中出技術士(青技交 幹事)

(2) 技術士補の仕事(森若技術士補)

続いて、北科大(旧道工大卒)OGで、北電総合設計(株)に勤務する森若技術士補から、担当している仕事(発電所のモニタリング調査)の講演を行いました。発電に使用された水を排水する際に、海に生息する生き物に影響を与えないため水温差や温排水拡散範囲等の基準がある事。調査日の設定では、潮位差が大きい大潮且つ下げ潮時に、発電出力および放水量が最大となる時間帯を選ぶことなど、自身が経験した課題解決方法を紹介してくれました。

また最後にはOGからの「ミライの技術者」に向けたメッセージを語りかけていました。



写真3 凱旋講演となった森若技術士補(青技交 幹事)

5. 土木の仕事全般の紹介

講演最後は、(株)ドーコンに勤務する木本技術士から土木や建築の業界全般を対象に2人の講演で紹介しきれなかった様々な仕事を写真で紹介。入学間もない学生が知っていそうな施設紹介を取り上げることで、土木の「大ワク」を把握、興味をもってもらう点にフォーカスした講演を行いました。



写真4 都市環境のミライを語る木本技術士

6. 質疑応答

筆者の進行で参加メンバーが学生からの質問に回答する質疑応答では、「この仕事をしようと思ったきっかけは何ですか」、「一番やりがいがあった仕事はなんですか」、「技術士補、技術士になるにはまず何から始めれば良いですか」といった、今後の就職活動に直結するような質問や実際の仕事内容に関する質問も多く寄せられました。番外編では、森若技術士補の恩師から、学生時代のマル秘エピソードの披露もあり、大いに盛り上がりました。



写真5 細川先生と筆者(どちらが私でしょう?)

7. まとめ

学生からの感想には「技術士になるとやりがいを感じるようになりました。」「今回の講演を聞いてさらに技術士の興味が湧きました。」等の技術士取得の動機となるようなキーワードが多くありました。アンケートでは、36人中25人が「技術士を今回初めて知った」「名前だけは知っていた」等だったのに対し、36人中34人が「将来技術士を取得したい」と回答してくれました。

また、「思った以上にたくさんの場所で働くことができるということが分かったので楽しくなりそうです。」「建築物を設計する時に、その地域と環境と調和することが大切だと思いました。」といった感想も頂きました。同アンケートでの今回講演の「わかりやすさ」「満足度」は5段階評価でいずれも4.6、4.6と学生に高評価であったことも一因だったのでは、と考えています。

また、講演後に細川先生から来年度のオファーも早々に頂きました。引き続き準備を進めます。笑